

聖書 使徒言行録3章1節～10節

「03:01 ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。03:02 すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日「美しい門」という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。03:03 彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しをこうた。03:04 ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。03:05 その男が、何かもらえると思って二人を見つめていると、03:06 ペトロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」03:07 そして、右手を取って彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、03:08 躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行った。03:09 民衆は皆、彼が歩き回り、神を賛美しているのを見た。03:10 彼らは、それが神殿の「美しい門」のそばに座って施しを、乞うていた者だと気づき、その身に起こったことに我を忘れるほど驚いた。」

《説教》『美しい門での驚くべき奇跡』

◆今朝は使徒言行録3章1節～10節までを通して主の恵み、導きに与りたく思います。註解書を参考にいたしますと、今日の箇所は使徒言行録が記す最初の奇跡物語であると書いているものが幾つか目に留まりました。この理解は当たっているでしょうか。それとも理解不足でしょうか。確かにこのように一人の人に起こった救いの出来事がわずか10節ですけれどもそれでも比較的細かく記されているのは、これが最初と言ってよいと思います。しかし、この「奇跡」の理解はちょっと狭いと思います。2章に記されて五旬祭の日にいわゆる「聖霊降臨」と、その結果、世界中から集まった人たちが生まれ故郷の国語で神様の大きな御業について聞くというのは、奇跡と言わないで何と言えよいのでしょうか。そしてまた今日の箇所の真上のところにペトロの言葉を受け入れた人々が洗礼を受け、その日三千人ほどが仲間に加わった事実、これは短い描写ですけれども、これを奇跡と言わないで、なんと言えよいのでしょうか。ですから今日の箇所が、使徒言行録が記す最初の奇跡というのは少し注意を要する注釈だと思います。

◆そのように「仲間に加わった三千人」と言われる人がいるのですが、その数に入らない人がここに一人います。その人は、神殿の美しい門のそばに人々によって運ばれて来て、そこに置かれて、物乞いをしていた40歳余りの人です。彼の身に起こったことは正に奇跡であります。今日は日曜学校でもこの箇所を読みました。そして12枚ある紙芝居の内、3枚だけを使い、そして少しの説明を加えた後、子供たちに問題を出しました。「今日のこの箇所に題を付けなさい」と。更に、「もしできるなら4字熟語で題を付けなさい」と難しい問題を出したのですが、ほとんど間髪を入れずに答えが出ました。皆さんも考えてみてください。「3章1節から10節に記されているお話に4字熟語で題を付けなさい。」今日の日曜学校には小学校2年生から中学3年生までの子どもたちが出席していましたが、ほとんど間髪入れずに答えを出したのは、中学3年の果歩ちゃんでした。「喜怒哀楽」でした。私も驚いたのですが、子供の感受性というか、理解力はすごいですね。

◆物乞いをしていたその人の身に起こったこと、気持ちをももの見事に子どもたちは表現しました。彼は40歳を過ぎていたと書いてあります。生まれながら体が不自由で、生れながら足の不自由な人が運ばれてきた、と書いてあります。まるで荷物みたいですね。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日美しい門という神殿の門のそばに置いてもらっていた。本当にこういう感じですね。その人が躍り上がって立ち歩き出したのです。そして歩きまわったり、踊ったりして神を賛美し、ペテロとヨハネ二人と一緒に境内に入って行ったのです。「民衆はみな彼が歩きまわり神を賛美しているのを見、彼らはそれが神殿の美しい門のそばに座って施しを乞うていた者だと気づき、その身に起こったことに我を忘れるほど驚いた」のは当然です。

◆こういう次第であります。これが初代教会の伝道の一コマであります。そして、今日ここに持ってきました絵を子どもたちに見せました。これはイスラエルの「紅海渡渉」の絵です。出エジプトの後、前に「紅海」が現れます。そして後ろから、エジプトの軍隊が追いかけてきます。絶体絶命のピンチです。その時、モーセが手を上げて祈ります。そしてイスラエルの民に言います。「恐れてはならない。落ち着いて、今日あなたたちのために行われる主の救いを見なさい」と。この絵を子供たちに見せ、「これが、神様がなされた、旧約聖書を代表する奇跡の御業です」と言いました。「それでは、この絵に、4字熟語で題をつけなさい」と言ったのですが、さすがに答えは出ませんでした。イスラエルの置かれた状態は正に「絶体絶命」の窮地です。そういうことであったけれども神様はそのような窮地の中に道を切り開かれたのですと、子供たちに話しました。

◆それでペテロとヨハネは午後3時の祈りの時に神殿に上って行ったと書かれています。彼ら二人はすでにクリスチャンになっていました。先週、新興のキリスト教会は、ユダヤ教から見れば、異端の新興宗教だと言いました。けれども最初のクリスチャンたちは、ユダヤ教を否定はしなかったのです。ユダヤ教徒も日に3回、朝、昼、晩、とお祈りをする。そして神殿の近くにいる者は神殿でお祈りする。イスラム教の人達は今も一日5回祈りの時を持ちます。定刻になったら仕事も置いて、お祈りをする。だから仕事を置いてというよりも、お祈りの時間を基本にして、仕事の時間を調節するのだと思います。私たちが日常仕事をする上で忙しい中で、日に5回、時を定めて祈るというのは、わたしたちの生活を軌道修正するために、これは良い習慣だと思います。そしてペテロとヨハネはユダヤ教の習慣を捨てなかったのです。

◆この祈りの習慣については、みなさんもよく知っておられるダニエルの物語が有名です。ダニエルはイスラエルの若者でしたが、捕囚としてバビロンに連れ去られます。いわゆる「バビロン捕囚」です。ですが、やがて王の側近の三大臣の一人になります。しかも王から一番信頼されています。それをやっかんだその国の二人の大臣は、策を計り、王に進言します。「向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願い事をする者は、だれであれ獅子の洞窟に投げ込まれる。」王はこの禁令を発布しました。しかし、ダニエルは仕事を終えて家に帰ると、いつもの通りエルサレムに向かって祈りと讃美をヤハウエに捧げます。そしてダニエルは告発され、獅子の穴に投げ込まれます。ところが王は心からダニエルを信任しています。ダニエルが信じている神様は本物だと王も認めていました。王は、獅子の穴へ行き、「ダニエル！ダニエル！生ける神の僕よ！お前がいつも拝んでいる神は、獅子からお前を救い出す力があつたか」と叫びます。獅子達もダニエルの眞實には叶いませんでした。そして王は、ダニエルを陥れようとした者たちを獅子の穴に投げ入れ処刑します。

◆先ほど一緒に歌いました賛美歌 353 番の 3 節にこうありました。「この世の支配者 おごり起てど その栄えすらも 闇にすぎず。地にあるわれらは ただひたすら 父、子・聖霊の 神をたたえん」と。神様を信じ、礼拝し、その神様にお祈りするということは他のいかなることにも代えがたいものなのです。そのためには地位を失い、獅子の穴に投げ込まれるということがあっても、意に介さない。ですからこの 3 時の祈りの時に、神殿に上って行ったということですが、それにはそういうダニエルのこともあるでしょうし、そして彼らクリスチャンもユダヤ教を否定するのではなくて、旧約聖書を否定するのではなくて、旧約聖書における神様の約束が成就するべく、神様はイエス・キリストを遣わされた事を信じる。これは旧約聖書の預言と矛盾するどころか、その預言が成就されたという形で、旧約聖書と新約聖書を、キリスト教会は自らの聖典とするわけです。

◆先週、今日の直前に記されている「信者の生活」のところでは、当時の信者の生活には本当にキリストの香りが立ち上がるのを覚えました。今日の個所について、中学 3 年の生徒が、「喜怒哀楽」と四字熟語でこれをまとめたのですね。見事な四字熟語を表現したのですが、実にここに書かれている事は何と豊かなことが書かれているのだろうかと思います。生まれながら足の不自由な人が運ばれて来て、美しい門のところに置かれました。すると多くの人が彼の前を通過して神殿境内へ入って行く。その中にペトロとヨハネがいたわけです。彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て施しを乞います。この人は幾つ位からこの「美しの門」で物乞いをするようになったか、それはわかりません。けれども昨日や今日の事ではないですね。ですから、宮参りをする人々の足音を聞けば、この人は、通る人の心境が分かるぐらいのベテランになっていた事でしょう。するとなんともいい感じの軽い足取りに聞こえたので彼は顔を上げます。すると、なんとも軽快な、ふところが豊かなような感じをさせるペトロとヨハネが見えます。そして彼は施しを乞うた。そしてペトロとヨハネは足を止めて彼をじっと見る。ペトロはかれをじっと見て、「私たちを見なさい」と言います。この人は何かもらえんと思つて二人を見つめているとペトロは言います。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう」と。「お金は持っていない」と言われ、彼は当てが外れます。しかしペトロは言葉を継いで、「しかし、わたしが持っているものをあなたにあげましょう」と言います。彼はまた顔を上げたと思います。「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり歩きなさい」と言います。「歩く」というのは「歩きまわる」こと、本当に「自由になる」こと、そして「新たに生きる」ことを意味します。「ナザレの人イエス・キリストの名によって歩く。」これが、ペトロたちが持っている唯一の善きものなのです。わたしはここを読んでおりました、ヨハネによる福音書が記す、イエス様とサマリヤの女性との対話の話を想起しました。スカルの井戸辺の対話ですね。イエス様は、サマリヤの女性に「この水を飲む者はまた乾く。しかし私が与える水を飲む者は決して乾かない」と。正にこれが今、物乞いをしている人と対面しているペトロたちの状態なのですね。根底からの生活刷新がなければならないのです。

◆「イエス・キリストの名によって歩む」とあります。この「名」というのは、名を持つ人の「本質」と能力を表わします。またその名を持つ存在の現臨を表わします。わたしたちは「イエス・キリスト」と言い慣れています、しかし「キリスト」は名前ではなくて称号です。イエスの名によって歩くというのはイエス様が神であられ、神の救いのそのものであって、「その御方が、このペトロ・私と共におられるように、あなたとも共におられます」と、ペトロは言っているのです。そう言つて、彼の右手を取つて起こします。ペトロには逡巡

は微塵もありません。自分自身が、イエス様によって立ち上がられ、歩き出したように、この人も、主イエス・キリストによって立ち上がり、歩き出すことができると、信じて疑わなかったのです。因みに「イエス」というお名前は「ヤハウエは救いなり」との意味で、正に、イエス様において救いの神様が現臨しておられるのです。

◆先週の牧師の落穂拾いの方が今日の聖書とよりよく合ったかなと思います。塔和子さんの「かかわらなければ」という詩の中の1部を、先週載せました。長い詩の1部を載せました。「ああ 何億の人がいようと かかわらなければ路傍の人 私の胸の泉に 枯れ葉 いちまいも 落としてはくれない」。しかし、ペテロは彼の手をとって起こすのです。そして「自分の持っている物、与えられた物、それによって生きている物、永遠に生きていくことができるもの、それをあなたに上げます」と言って手渡すわけです。ここを読んでいて、今日の自分と初代のペトロ達と比べてみて、信仰の実力の歴然たる差を思いしらされました。一体自分は何を与えられており、いかなる幸い、自由に生かされているのかということの自覚、認識の希薄さ、それをつくづくと思い知らされました。そして彼は立ち上がって一緒に神殿の境内に入って行きます。恐らく、彼は大人になって初めて神殿に入っていくことができました。

◆そのような次第で、人々はこれを見てみなあつけにとられているわけです。それで次のページになりますけれども、3章11節以下にこうあります。「03:11 さて、その男がペトロとヨハネに付きまどっていると、民衆は皆非常に驚いて、「ソロモンの回廊」と呼ばれる所にいる彼らの方へ、一斉に集まって来た。03:12 これを見たペトロは、民衆に言った。「イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、わたしたちがまるで自分の力や信心によって、この人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか。」「わたしたちが自分の力でこのひとを立ち上がらせたのではない」ということを、ペトロははっきりと言うわけです。ですから一般の人々が、「非日常」として驚くことがペトロやヨハネの日常なのです。そして、この私たちも非日常的な神様の恵みの中に日常的に生かされているということは、私達もペトロ達と共通ですね。このことの揺るがぬ認識こそ、信仰ですね。イエス様(=神、救い給う)と一体化され、そのご臨在の中に今ある、明日もある。そしてこのお方からの水を飲む者は永遠に渴かないのです。

◆イザヤ書41章10節にこうあります。「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える。」またよく引用しますがイザヤ書46章4節にこうあります。「わたしはあなたがたの年老いるまで変らず、白髪となるまで、あなたがたを持ち運ぶ。わたしは造ったゆえ、必ず負い、持ち運び、かつ救う」。神様は、この約束の通りに果たして下さいます。たとえ絶体絶命のピンチに陥った時も、私達は神様の支えの手の中にあるのです。一般の人々が<非日常的>だとして驚く事が、弟子達・信者たちにとっては、正に<日常的>なのです。全く非日常的な神の恵みの中を、日々生きることが許されているのが『我々』信仰者なのです。この事実を覚え、日々歩んで行きたく思います。

◆お祈りいたします。

憐れみ深き主イエス・キリストの父なる神様。わたしたちは何と言う御恵みの中に置かれていることでしょうか。心から御名を讃美いたします。どうか、主イエス・キリストの御名によって生かされ、歩み続け、全ての人々と、恵みを分かち合う者としてください。この祈り、主イエス・キリストの御名によって、御前にお捧げ致します。アーメン。